

# 授業に 「手びかえ」 を生かす

「手びかえ」の意味

教師の「手びかえ」は教育指導用語ではないのですが、国語教室では便利で重宝な言葉です。

学習者ウォッチングのメモ、生徒が学習のときに見せる姿や彼ら

業をつくっていくときの構成要素の一つとなるものです。授業の展開計画を立てるときは当然必要ですが、授業中にそれを必要とすることも出てきます。学習者の一人一人が、何を、どのように考えているかを教師が知っている、だとだれが話し合うと対話になっていくとか、生徒Aと生徒Bとの話し合いがつまってしまったり、生徒Cを登場させると別の方向に動いて学習が進むとかの予想が立てられるのです。話し言葉の学習では欠かせません。

話す・聞く・話し合つての学習では、学習の目的や形態にもよりますが、テーマや教材の文章の選び方で授業の成否が分かります。伝達や報告の学習の場合は、その目的が達せられれば学習は終わります。しかし、話し合つて意見の交換をする、話し合つて考え方の違いを発見しながら問題の所在を突き止めたり新たな考え方を導き出

そうしたりするような学習の場合は（テーマや教材の文章は、多くの考え方を引き出せる、多くの視点をもてるといった要素のあるものが選ばれていなければなりません）が、学習者一人一人の考えや考えの向きを知って具体的な授業展開を考えなければいけません。教師が、だれがどのように考えているのかということを知らなければ、授業になっていきかないのです。

「手びかえ」はこのように役立たせる

意見を交換し、話し合いで学習を進めていく場合について考えてみましょう。

あるテーマについて（あるいは文章を読んで）考えた  
とします。学習者はとりあえず自分の考えを出し、その  
論拠（そう考えた理由）を明らかにします。そして、  
そう考えた理由を具体的にいくつか示して、相手に伝  
わるように自分の考えを組み立てます。そこまではでき  
なくても、わたしの考えは。。。だ（反。。。だ）あたり  
でとどまっていることもありましよう。そのあたりでも  
指導者がメモして（だれがどんな考えをもっているか）  
手元に持っているといふと、

- ・学習をどのような形態にするか

・グループ学習ならどのようなグループをつくるか

うするかなどを考えるのです。

「手びかえ」は授業展開に直接作用するものですが、さらに、子ども一人一人を知っておくと、発表をしたがらない学習者に発言を求めて発表力を伸ばしたり、発表意欲をわきたたせたりという指導にも威力を発揮します。

・ペア、四人などグループの学習にすると、だれとだれを組み合わせると学習の効果を上げられるか、また、学習者一人一人の個性・学力を伸ばすことができるか

- ・グループ学習と全体学習をどのように組み合わせる学習の効果を高めていくか

について考えることができます。また生徒に、学習コミユニケーションの体験が、生きていくのに実は大きな力となることを体得させるのに役立つのです。

「手びかえ」の実際

学習者ウオッチングですから、とらえた内容を忘れないために手早く正確にメモすることが要求されます。メモには「名表」もしくは「座席表」を使用します。名前と顔が一致しない時期（例えば新学期、転任早々）は後者が役立ちます。「○○」についての考えを、○×？などの記号を用い、一言メモする程度にします。これは授業中（例えば机間指導や発言・発表の学習のとき）に行う場合ですが、事前、事後に行うこともあります。つまり、学習の記録（ノートや作文など）によってとらえて「手びかえ」とし、それを使って次の授業の計画を立てます。だとしたらがペアを組むか、四人グループならど

座席表

|    |    |     |     |
|----|----|-----|-----|
| 山田 | 近藤 | 加藤？ | 宇野○ |
| 立川 | 上村 | 森○  | 石井○ |
| 沢  | 土江 | 谷○  | 相田× |
| 高橋 | 本木 | 泉×  | 浜×  |
| 鈴木 | 小野 | 春日○ | 浜田× |
| 石田 | 安田 | 竹本× | 幸田× |
|    |    |     |     |

『バカの壁』読みかけ

「話せば分かる」は本当であると考えている…………○  
「話せば分かる」は本当ではないと考えている…………×